

## 現状の課題

### 1. この先、厳しさを増す自治体運営

今後、「人口減少(生産年齢人口減小)や経済縮小による税収減」と「民生費や公共施設の更新費用の増大」により、自治体の財政は厳しさを増していきます。これからは、人口増加と経済成長により増加する税収を原資に、行政サービスを拡大できた時代の考え方からの転換が必要です。

定期的に業務の評価と見直しを行い、ICT化とデータに基づいた運営により、徹底した業務効率化を進めていかなければなりません。

### 2. 複本の見直し

年間の総貸出数のうち上位の5,000タイトルが一般書では21%、児童書では55%となっており、また、その複本冊数は、一般書で31,332冊、児童書で69,147冊となっています。このように、本市の図書館は人気のある文芸書等の複本を多く所蔵している状況であり、他市との比較でも多くなっています。

そして、この貸し出しや配送業務に図書館の経営資源の多くが割かれており、その他の重要な業務に注力できないことから、見直しが必要だと考えます。

### 3. 分館機能の再定義

市内には貸出機能が中心の200㎡程度の小規模な分館が17館あり、新たな機能を担う余地がありません。将来的に予想される市の財政状況を踏まえて、分館の役割や必要とされる機能を検討します。

## 市民協働でつくる図書館

将来的に予想される縮減社会においては、行政はもちろん、市民にも変化が求められます。

図書館の運営についても、市民が図書館の所有者・運営者であるという意識を持ち、行政と一緒に図書館をつくり上げていくことがこれからは必要です。

市民に必要な情報は、資料の中だけにあるものではありません。市民一人ひとりが持っている知識や経験が、他の人に循環し、受け継がれ、その知識が活用されることも重要です。市民の積極的に主体的な参画により、図書館は人と人や人と情報をつなげる接点としても機能していくべきと考えます。

そして、このためにも、行政は図書館の情報を広く共有することで、多くの市民の参画と協働を促していきます。

柏市教育委員会 生涯学習部生涯学習課  
〒 277-8503 千葉県柏市大島田48番地1 沼南庁舎3階  
電話: 04-7191-7393

柏市図書館のあり方についてソーシャルメディアで情報発信しています。フォローしてください。

Facebook: <https://www.facebook.com/kashiwa.futurelibrary/>

Twitter: [https://twitter.com/kashiwa\\_future](https://twitter.com/kashiwa_future)

## 柏市図書館のあり方(案)

いま社会は、人生100年時代を迎えようとしており、人工知能・ロボティクス等の新しい技術が日常生活や企業等に浸透し始めるなど、社会の大転換期を迎えています。

これを乗り越え豊かな人生を生きるために、生涯にわたって学び、自己の能力を高め、働くことや、地域や社会の課題解決のための活動につなげていくことの必要性が一層高まっています。

この「柏市図書館のあり方」(案)は、こうした時代を見据え、長期的視野に立った柏市の図書館を運営するための理念や方針、理念実現のための考え方を示すものです。

今年度末の策定を目指し、市民の皆さまと一緒に検討を進めてまいります。

## 基本理念

学びと活動の循環による、ひとづくりの拠点



## 基本方針

### 1. 生涯を通じて学び、生きる力・知識・技能を取得できる図書館

未来を担う子ども達が、予測困難で複雑な社会においても、幸せに生きる力を養うことを支援します。また、社会の大きな変化のなかで、誰もが何度でも学び、知的刺激を受け、自己の能力を高められる知の拠点として機能します。

### 2. 学び合いと社会的な活動につながる、ゆるやかなコミュニティを育む図書館

少子高齢化、人口減少、価値観の多様化・複雑化など、社会を取り巻く環境が急速に変化しています。その中で、学びを通じて仲間をつくるきっかけづくりや、仲間とつながりながら楽しく学んだり活動できる環境の重要性はさらに高まっていくものと考えます。市民が地域社会の一員として社会参加できるよう、つながり、そして共に学ぶゆるやかなコミュニティづくりの拠点となります。

### 3. シビックプライド(地域への愛着・誇り・ふるさと感)を育む図書館

図書館は単独で存在するものではなく、地域とのつながりにおいて、その機能を発揮するものです。図書館は、潜在力を秘める市民の活動を支援し、積極的に地域とつながります。そして市民活動の原動力となる「シビックプライド」を育む場所となります。

## 理念と方針の実現のための機能

### 1. 未来を担う子どもたちが幸せに生きる力をつける機能

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものとし、人生をより深く生きる力を付けていく上で欠くことのできないものです。

図書館は、子どもに読書体験を提供し、発達や学びの連続性を踏まえた支援をすることにより、読書習慣や読解力を育みます。保護者に対しては、子どもの読書活動への理解や関心を高める役割を果たします。

その他にも、多世代交流や子ども司書活動などを通じて、自分が必要とされていると感じる「自己有用感」の獲得や、遊びと体験の要素を通じて、考える力や工夫する力を養うことを支援します。

### 2. 生涯にわたる学びを支援する機能

長寿化した人生では、生涯を通じて学び続け、必要な新しい知識や技能を取得できる環境があることが重要です。また、困難を抱える家庭への読書環境の提供や、労働市場の構造変化により、学ぶ必要に迫られた際にも、学ぶ環境を提供するなど、図書館は学びのセーフティネットとなることも求められます。

複雑で予測困難な社会の中で、図書館は、何度でも学べる場となり、人生の可能性を広げ、生きる力や幸せをつかむ力を養う場を提供します。

### 3. ゆるやかなコミュニティ形成機能

本市では、多様なコミュニティ活動が主体的に行われ、新しいことに挑戦するアクティブな市民が多く活躍し、まちや地域の活力や賑わいを生み出しています。

地縁的なコミュニティだけでなく、プロジェクトごとに関心のある市民が、必要に応じて集まるネットワーク型コミュニティなども次々に生まれており、このことが、図書館が目指すべき「柏らしさ・柏の特長」だと考えています。

しかし、コミュニティの中にいる人同士の連絡・連携は強固ですが、個々のコミュニティ同士のつながりは十分ではありません。また、ライフスタイルに起因するコミュニティへの参画不足や特定のコミュニティへの帰属を忌避する市民の存在（「控えめな市民」）は、本市においても見受けられます。

分離・点在するコミュニティ同士やアクティブにコミュニティ活動に参加する市民だけでなく、そうではない「控えめな市民」も参加できる「ゆるやかな紐帯」を支える基盤が重要です。

### 4. シビックプライド（地域への愛着・誇り・ふるさと感）の醸成機能

本市には様々な分野に詳しい市民が多く住んでおり、その知的創造活動によりつくられた資料は、柏市の貴重な地域資料となります。また、急速に失われていく柏の近現代の歴史を保存し、広くインターネットで発信するため、デジタルアーカイブの検討も必要です。

自分の住む地域を知ることが、地域への愛着や誇りにつながり、地域を良くしようとの思いにつながります。特に、子ども達が、生まれ育った柏市を「ふるさと」と感じてもらえるよう、子ども達が地域を知る活動を図書館は支援します。



## 理念実現の考え方

### 1. ひと：利用者

これからは、「公共」を行政だけが担う時代ではありません。一人ひとりがまちや地域のために何かしようとする姿勢である「パブリックマインド」を養い、まちや地域に関するそれぞれの人が少しずつ「公共」のために行動することが大切です。社会教育施設である図書館は、幅広い年齢層と様々な背景を持つ市民が集まる特性を活かし、このパブリックマインドを養う機能を担います。

### 2. ひと：職員

これからの図書館職員には、地域と住民をよく知り、新しい知識を積極的に吸収する姿勢が不可欠だと考えます。従来からのレファレンス能力だけでなく、関係機関や個人との関係性を構築するコミュニケーション能力やコーディネーション能力、広報能力、上位計画を踏まえた政策立案・予算編成・折衝能力、実行力、組織のマネジメント能力を持つ人材が必要です。

また、今後は紙の資料だけでなく、デジタル資料も取り扱うことになるため、ITリテラシーを持った人材が求められ、また、利用者にITの知識や技能を伝える能力のある人材が必要です。

### 3. もの：施設

資料提供や読書の場という図書館の従来の役割では、現在、そして未来には向き合えません。市民が交流し、学び合うことで、知的好奇心が生まれる場や学んだことの実践の場となります。図書館は賑やかで活気ある知の拠点でありコミュニティや市民の交流の拠点としても機能します。

### 4. もの：資料

新たな図書館利用者を増やすためにも、文芸書に偏ることなく、様々なジャンルの資料を揃え、必要な調査や学習ができる蔵書構成を目指します。

### 5. こと：運営・活動

市の蔵書92万冊のうち、22万冊が7箇所蔵書の書庫、58万冊が17箇所蔵書の分館に所蔵しています。分館には市内に1冊のみの図書も多く配架されており、例えば3万6千冊の蔵書がある南部分館では、その内の1万2千冊の図書が市内に1冊のみとなっています。図書が分散していることによって、調べ物をする利用者には、図書を手に取って確認することができず不便であり、配送業務も非効率になっています。

また、図書館は市内43の小中学校の学校図書館の支援も重要な業務です。近年、調べ学習などの推進により学校図書館は子ども達の学習に不可欠なものとなり、学校図書館にない資料でも、必要な時にすぐに手に入る配送ネットワークが求められています。

そのため、学校図書館も含めた配送ネットワークや蔵書の配置などについて検討が必要です。

柏市におけるコミュニティ活動の状況

